

手術病院の各部署・担当などのご案内

伏見医師会  
病診連携パス  
—大腸がん術後—

氏 名: \_\_\_\_\_

生年月日: \_\_\_\_\_ 年 月 日

かかりつけ医:

手術病院:

その他医療機関:

## 病診連携パスとは

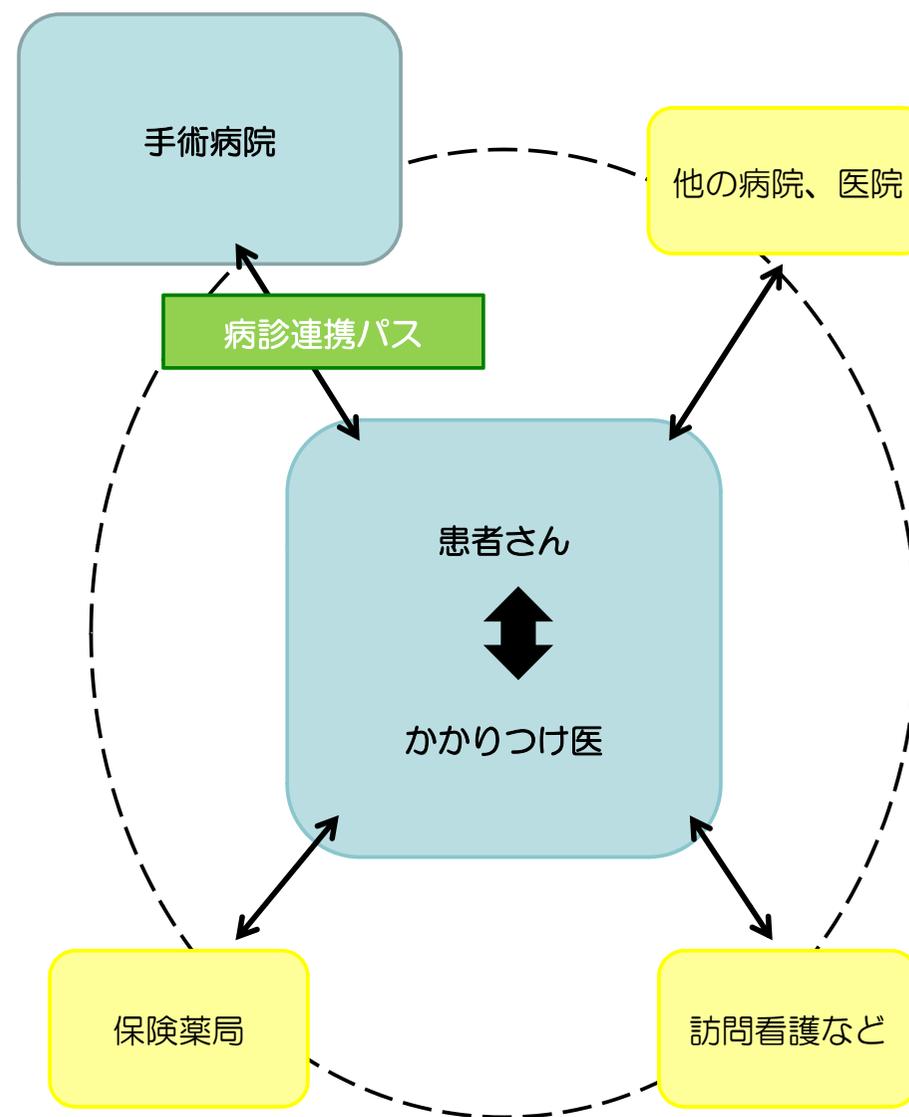
病診連携パスとは、かかりつけ医と手術病院が患者さんの治療経過を共有できる「治療計画表」のことです。

病状が落ち着いているときの投薬や日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な治療や節目の検査は手術病院が行います。手術直後や抗癌剤治療中などを除き、何かあればまず、かかりつけ医を受診して下さい。必要に応じて手術病院を受診していただきます。また、緊急を要する場合で休日や夜間等かかりつけ医を受診できない場合は、手術病院までご連絡ください。

この連携パスを活用することで、かかりつけ医と手術病院が協力して、患者さんに安心して質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。ご自身でも治療経過の把握ができ、今後の診療予定を知ることにもつながります。

なお、このパス（大腸がん術後）は術後5年間を目処に大腸がんを対象としたものです。定期検査は他のがんや病気を全てカバーするものではありません。病気全般に関してはかかりつけ医に相談されるか、地域の検診、人間ドックなどをお受け下さい。

## 病診連携の概念



## 退院後の生活

### ▶手術後に起こりやすい症状

切除した大腸の部位や切除量によって、下痢になりやすかったり、便秘になりやすかったりします。

特に直腸切除の場合は、便を貯める能力と便を押し出す能力が低下するため、1回便量の減少、排便回数の増加、残便感などの排便障害を来します。

これらの症状は一般的には術後数カ月から数年で徐々に改善して行きますが、症状が強く持続する場合は適宜、下剤、下痢止め、消化薬などを使用します。

### ▶社会復帰に向けて

仕事などの社会復帰が可能となる時期は、病状、全身状態、手術術式などにより異なります。ひとつの目安としては、仕事内容が主にデスクワークであれば術後1か月以内で、腹筋をよく使う運動や仕事であれば術後2~3か月くらいを目処に社会復帰が可能と考えられます。

## 退院後の注意点

### ▶食事の注意点

食事の種類には特に制限はありません。早食いや大食い、食物繊維の多いものを一度にたくさん食べたりすると腸閉塞の原因となることがあります。バランスのよい食事内容を、よく噛んで、ゆっくり食べるよう心がけてください。術後1か月を過ぎたら適度にアルコールを飲むことも可能です。

### ▶注意すべきおなかの症状

高度の便秘は腸閉塞の原因となることがあります。便秘に対しては、水分の十分な摂取や適度な運動を行い、生活のリズムを整えてください。食事・生活習慣に注意しても便秘が続く場合、適宜下剤を使用します。

腹部膨満感は腸閉塞の前兆かも知れません。腹部膨満を感じたら、1回の食事量を控える、または一度食事をやめて下さい。食事をやめても腹部膨満が続き、排ガスのない場合は、かかりつけ医（または手術病院）に相談してください。

## 大腸がん術後連携パス

手術日

\_\_\_\_\_年 月 日

手術術式

腹腔鏡下・開腹

病名

\_\_\_\_\_

病期（大腸癌取扱規約第7版）

ステージ

\_\_\_\_\_

術後補助化学療法

なし・あり

\_\_\_\_\_

## 大腸がん術後連携パス(術後～1年)

	1か月	3か月	6か月	9か月	1年
	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月
診察・採血	●	○	●	○	●
チェック					
CEA値（術前： ）					
CA19-9値（術前： ）					
腹部CT(またはエコー)			●		●
チェック					
胸部CT(またはレントゲン)			●		●
チェック					
大腸内視鏡					○/●
チェック					

- かかりつけ医で行います
- 手術病院で行います
- /● かかりつけ医または手術病院で行います
- △ 必要に応じて行います

ステージ I では適宜省略可能です

～メモ～

## 大腸がん術後連携パス(1年～2年)

	1年3か月	1年6か月	1年9か月	2年
	年 月	年 月	年 月	年 月
診察・採血	○	●	○	●
チェック				
CEA値				
CA19-9値				
腹部CT(またはエコー)		●		●
チェック				
胸部CT(またはレントゲン)		●		●
チェック				
大腸内視鏡				
チェック				

- かかりつけ医で行います
- 手術病院で行います
- /● かかりつけ医または手術病院で行います
- △ 必要に応じて行います

ステージ I では適宜省略可能です

～メモ～

～7～

## 大腸がん術後連携パス(2年～3年)

	2年3か月	2年6か月	2年9か月	3年
	年 月	年 月	年 月	年 月
診察・採血	○	●	○	●
チェック				
CEA値				
CA19-9値				
腹部CT(またはエコー)		●		●
チェック				
胸部CT(またはレントゲン)		●		●
チェック				
大腸内視鏡				△
チェック				

- かかりつけ医で行います
- 手術病院で行います
- /● かかりつけ医または手術病院で行います
- △ 必要に応じて行います

ステージ I では適宜省略可能です

～メモ～

～8～

## 大腸がん術後連携パス(3年～4年)

	3年3か月	3年6か月	3年9か月	4年
	年 月	年 月	年 月	年 月
診察・採血	△	○/●	△	○/●
チェック				
CEA値				
CA19-9値				
腹部CT(またはエコー)		○/●		○/●
チェック				
胸部CT(またはレントゲン)		○/●		○/●
チェック				
大腸内視鏡				
チェック				

- かかりつけ医で行います
- 手術病院で行います
- /● かかりつけ医または手術病院で行います
- △ 必要に応じて行います

ステージ I では適宜省略可能です

～メモ～

## 大腸がん術後連携パス(4年～5年)

	4年3か月	4年6か月	4年9か月	5年
	年 月	年 月	年 月	年 月
診察・採血	△	○/●	△	○/●
チェック				
CEA値				
CA19-9値				
腹部CT(またはエコー)		○/●		○/●
チェック				
胸部CT(またはレントゲン)		○/●		○/●
チェック				
大腸内視鏡				○/●
チェック				

- かかりつけ医で行います
- 手術病院で行います
- /● かかりつけ医または手術病院で行います
- △ 必要に応じて行います

ステージ I では適宜省略可能です

～メモ～